

令和8年度 豊中市総合計画審議会 第1回会議 議事要旨

【日 時】令和8年（2026年）7月6日（月）18時00分～20時00分

【場 所】第二庁舎3階会議室、ZoomによるWEB会議

【出席者】岸本委員、北川委員、川久保委員、石川委員、吉村委員、野崎委員（オンライン）、久委員、高木委員、高岸委員、佐藤委員（オンライン）、向井委員、森島委員

【欠席者】なし

【事務局】中尾都市経営部長、玉富都市経営部次長
都市経営部経営戦略課：松本、高橋、西浦、富永、乗上

【傍 聴】4名

【案 件】1. 会長の選出について
2. 第5次総合計画基本構想に係る諮問について
3. 第5次総合計画基本構想に係る骨子案について

【資 料】

-----案件1に関する資料-----

資料1 豊中市総合計画審議会に係る規則等について

資料2 豊中市総合計画審議会 委員名簿

-----案件2に関する資料-----

資料3 第5次豊中市総合計画基本構想骨子案

-----参考資料-----

参考1 第5次豊中市総合計画策定にかかる参考データ

参考2 第4次豊中市総合計画後期基本計画

■開会

■都市経営部長挨拶

■資料の確認

■成立要件の確認

事務局

本審議会規則第7条第2項に基づき、会議の成立要件を満たしていることを確認。
傍聴者は4名。

■委員紹介

■1. 会長の選出について

(豊中市総合計画審議会規則第6条第2項の規定により、会長を委員の互選により決定)

会長・・・久会長

(豊中市総合計画審議会規則第6条第4項の規定により、会長職務代理者を会長の指名により決定)

会長職務代理・・・石川委員

■2. 第5次豊中市総合計画基本構想に係る諮問について

(中尾都市経営部長から久会長に諮問書の手渡し)

■3. 第5次豊中市総合計画基本構想に係る骨子案について

事務局

(資料3「第5次豊中市総合計画基本構想骨子案」について説明)

会長

今回示された骨子案は、今後、素案として具体化される前段階のものであるため、内容面や構成面について幅広く意見をいただきたい。

委員

将来像の方向性について、これまでの施策体系と基本構想・基本計画を一対一で対応させる形から、複数の分野や部署が同じ方向に向かって取り組めるよう、柔軟性を持たせる方向性はよいと考える。また、豊中市のあゆみを記載することは、歴史をふまえて今後の計画をつくるという点で重

要である。一方で、豊中市が現在の人口規模や産業の集積に至った背景について考察を加えることで、より具体性が出るのではないかと。さらに、市制 90 周年を迎えたことにとどまらず、100 周年に向けて基盤をつくっていくというメッセージ性を示してはどうか。

会長

骨子案では、あゆみ、特性、将来像が個別に並んでいる印象があるため、それぞれがどのようにつながるのかをストーリーとして示すと、よりわかりやすくなる。豊中市は、歴史的な中心市街地が明確な都市とは異なり、鉄道沿線の駅を中心に複数の拠点が形成されてきた都市構造を持つ。こうした歴史的発展や地域ごとの特性をふまえ、現在の強みや将来像にどうつなげるかを整理していただきたい。

委員

市民も一緒に市をつくっていくという流れが示されている点はよい。あゆみや特性の記載については、最終的に箇条書きのままとするのか確認したい。また、あゆみや特性を掲載する意図が最初に示されていると、なぜその内容を掲載しているのかが市民にも伝わりやすいのではないかと。

事務局

今回は骨子案であるため、要素を箇条書きで示している。最終版では、文章化やイラスト化、デザイン面での見せ方を含めて検討する。

委員

あゆみ・特性と将来像の関係性がわかるよう、構造を見せる工夫が必要ではないかと。将来像を支えるものとしてこれまでのあゆみや強みがあるのか、あるいはあゆみや強みをふまえて将来像につながっているのか、その流れが視覚的にも伝わるとよい。

会長

事務局として意図を持って構成していることが、現在の案では伝わりにくい部分がある。あゆみ・特性と将来像のつながりがわかるよう、見せ方を工夫していただきたい。

委員

あゆみを大きく取り上げることは、市民が豊中の成り立ちを知り、今後どう関わっていくかを考えるきっかけになる点でよい。一方で、共創という考え方について、市民がどのように関わればよいのかがまだ見えにくい。市民が自分ごととして関われるきっかけや、関わりしるを示す工夫が必要ではないかと。また、将来像にウェルビーイング（以下「幸福度」という）が示されているが、社会潮流や特性の部分で幸福度に触れられていないため、なぜ幸福度を掲げるのかが伝わるよう整理するとよい。

会長

量から質へという観点から、一人ひとりの幸せをどう実現するかは重要な論点である。豊中市の総合計画において幸福度を位置づけるのであれば、その背景や社会潮流との関係を示すことで、市民にも意図が伝わりやすくなる。

委員

「ありたいまち」のうち「持続可能で快適なまち」において、アクセスという言葉が使われているが、移動や公共交通の意味で使っているのか、買い物、医療、教育など必要なサービスを誰もが利用可能であることをさしているのか、不明確になっている。サービスの利用に際して、誰もが安全・安心に移動できる手段や環境整備という観点は、SDG s の住み続けられるまちづくりの観点からも重要であり、その視点をより明確に示してはどうか。

委員

今後は、AI が資料を読み取り、市民がその要約を見ることも考えられるため、幸福度やアクセスなど、重要な言葉については、定義やねらいを明確にしておく必要がある。また、あゆみについては、全国や豊中市の人口の変化、市街地の広がりなどをあわせて示すことで、豊中市がどのように形成されてきたのかがより伝わりやすくなるのではないかと。

会長

委員の意見に加え、人口動態と市街地の発展過程を地図などで重ね合わせて示すことで、豊中市がどのように形成されてきたのかをより重層的に理解できるのではないかと。古くから市街化された地域と新しく開発された住宅地ではまちなみの特徴も異なるため、そうした情報をあわせて示すことで、豊中市のあゆみや特性がより具体的に伝わる。

委員

過去の総合計画策定時に示された人口見通しと実際の推移に差があったことをふまえ、なぜ豊中市が現在も人口規模を維持できているのかを分析する必要がある。また、「ありたいまち」に示された表現は抽象的であり、豊中市の現状にどのような課題があり、それをどう解決するための将来像なのかが見えにくい。具体的な課題や分野別の観点を示すことで、議論しやすくなるのではないかと。

会長

総合計画は抽象度が高くなりやすいが、その下には分野別の具体的な計画があるため、産業振興など各分野の計画と総合計画をどのように関連づけて見せるかについても工夫が必要ではないかと。

委員

産業界の立場から見ると、豊中市内には約1万3000の事業所があるにもかかわらず、その規模感や他自治体との比較、産業の位置づけが十分に示されていない。産業は市にとって重要な分野であり、総合計画においても忘れてはならない視点として、より明確に扱っていただきたい。

会長

豊中市は郊外住宅都市として発展してきた経緯があり、住民側の意見が中心になりやすい一方、市内で事業を営む人々の声が埋もれやすい面がある。市民ワークショップ等でも事業者の参画が少ない場合、住民側の意見に偏る可能性があるため、今回の計画策定においては事業者の視点も十分に取り入れながら進めていただきたい。

委員

基本構想は市内外に向けたPR資料としての性格も持つため、読んだ人が豊中市に住みたい、関わりたいと思えるようなストーリー性が必要である。将来像に「40万」という表現があることで、現在の市民に向けた内向きの印象も受けるため、外から来る人も受け入れ、ともにまちをつくっていく包摂性をより打ち出してはどうか。豊中市は北摂地域の中でもリーディング都市として、全国のモデルとなるような方向性を示してもよいのではないかな。

会長

豊中市が世界や日本に誇れるものを明確にし、それらをつなぐ言葉を見つけることが重要である。例えば、インクルーシブ教育など、豊中市が先進的に取り組んできたものを前面に出すことで、計画の特徴がより伝わりやすくなる。

委員

過去に示された人口見通しと実際の推移に差があった理由について、十分に分析する必要がある。少子化が進む中で、人口を維持するためには、外国籍の方を含めた受け入れや共生の視点も避けて通れない。外国から来た人が日本や豊中市で暮らし、学び、地域に参加できるような仕組みを整えることが重要であり、豊中市がその分野でも先進的な取組みを打ち出せるとよい。

委員

幸福度を目標に据えることは、行政が市民一人ひとりの暮らしや幸せを支えるという観点から重要である。一方で、幸福度をどのように測定するのか、どのような要素で構成されるのかを整理する必要がある。人生満足度、将来への希望、生きがい、日々の安心感や気分など、複数の側面から捉えることが必要であり、計画に掲げる将来像や指標がそれらを適切に反映しているか確認する必要がある。また、2030年以降の国際的な議論として、安全性や公正性も重要な視点となっており、平等・公平・公正の考え方を計画にどう位置づけるか検討してはどうか。

会長

将来像に掲げる言葉が抽象的なままでは進捗管理が難しい。言葉だけで終わらせず、具体的に何をめざし、どのように測定するのかを整理する必要がある。表現していることと測定している指標がずれないように留意すべきである。

委員

「ありたいまち」はどの自治体にも当てはまり得る表現になりやすいため、豊中市らしさをどのように表現するかが重要である。また、幸福度などの指標は多くの要素に左右されるため、取り組みと成果の関係が見えにくくならないよう、測定方法や因果関係の整理が必要である。市民に対して、市が個人の幸福に向き合っていることが伝わるようにすることも大切である。

委員

市民に向けてわかりやすくするためには、シンプルに示す必要がある一方で、その背景にある考え方やデータをどこまで載せるかは難しい。まず手に取ってもらえる本編をつくり、より詳しく知りたい人が資料編に進めるような構成にするなど、見せ方の割り切りも必要ではないか。

会長

本編は言いたいことを絞って示し、詳細は資料編に整理する方法も考えられる。市民が読みやすく、必要に応じて深く確認できる構成にすることで、総合計画をより使いやすいものにできるのではないか。

委員

市民や事業者が総合計画を自分ごととして捉えられるようにする工夫が必要である。他市では、市民自身のチャレンジを書き込む欄を設けたり、事業者が市の KPI にどのように貢献できるかを示す仕組みをつくった例もある。総合計画を単なる青写真にとどめず、市民や事業者が関わるきっかけとして活用できる形にしてはどうか。

会長

総合計画における「豊中市」とは、市役所だけではなく、市民や事業者など豊中で活動するすべての主体を含むものとして捉える必要がある。行政がサービスを提供するだけでなく、市民や事業者も主体として将来像の実現にどのように関わっていくのかを計画で示すことが重要である。

委員

豊中市のあゆみについて、原始から現在までの歴史を示すことは意義があるが、市民が自分ごととして受け止めやすくするためには、現在に近い部分にも一定のボリュームがあるとよい。また、社会の展望については国全体の記述が多いため、豊中市の計画として、市の状況に即した記載をより充実させてもよいのではないか。

委員

豊中市が世界に誇れるものとして、今後の千里中央の再整備は重要な機会ではないか。新しいまちをつくる際に、車いす利用者やベビーカー利用者などを含め、誰もがまちの中心を通りやすい設計にするなど、包摂性やバリアフリーを前面に出した取組みができれば、豊中市らしい特徴として発信できるのではないか。

委員

いわゆる社会的に不利な状況に置かれやすい人にやさしいまちは、結果としてすべての人にやさしいまちである。子育て中や、けがをした時など、誰もが移動や利用のしづらさを経験し得るため、包摂性やアクセシビリティを重視したまちづくりを豊中市の特徴として打ち出せるとよい。

委員

「多様な人々が互いを認め支え合うまち」を考えるうえでは、人権という視点を明確に位置づけることが重要である。単に多様性を尊重するだけでは、不平等が見過ごされる可能性がある。ライフスタイルの違いをふまえながら、誰もが平等なライフチャンスを得られるようにする必要がある。また、社会の変化に対応していくためには、新たにまちに関わる人とこれまで地域で暮らしてきた人の間で対話を重ね、互いに調整しながらまちをつくっていく姿勢が必要である。

会長

多様性や共創といった言葉について、委員間や市民との間で具体的なイメージが共有されているかを確認する必要がある。「ありたいまち」を実現する方法論として、協働・共創や対話をどのように位置づけるかを明確にし、市民をお客様ではなく主体者として位置づけるメッセージをより前面に出してはどうか。

委員

良いことだけを示すのではなく、課題やできていないことも示すことで、市民や事業者の主体的な関わりを引き出せるのではないか。行政として課題を示しにくい面はあるが、課題を共有したうえで、ともに解決していく姿勢を示すことが重要である。

委員

KPI や KGI を設定すると、行政に対する評価や批判の対象になりがちであるが、本来は市民や事業者も含めてみんなで決め、みんなで実現をめざすものとして位置づけるべきである。達成できなかった場合も、行政だけを責めるのではなく、みんなで改めて考え直す柔軟さが必要である。

会長

公共交通を例にすると、利用者が減れば減便や廃止につながるため、市民自身が利用し支えることも必要になる。総合計画においても、行政だけでなく市民や事業者が主体的に関わらなければ実現できないことを示すことが重要である。

委員

まちづくりを考える際には、強みだけでなく課題に焦点を当てることも重要である。課題を明確にして関係者が問題意識を共有することで「自分たちも関わらなければならない」と感じやすくなり、主体的な参画につながる。

会長

本日の議論では、あゆみと将来像のつながり、豊中市らしさ、幸福度、人権・包摂、共創、市民や事業者の主体的な関わり、計画書の見せ方など、多くの重要な意見をいただいた。事務局には、本日の意見をふまえ、次回以降の素案づくりに反映していただきたい。

■4.その他

(連絡事項「今後の日程について」説明)

会長

以上で「第1回豊中市総合計画審議会」を終了したいと思います。ありがとうございました。

(以上)